

真田本城(真田山城, 松尾城, 住蓮寺城, 十林の城山) (市指定史跡)

(真田一族発祥の地) (上田市真田町長字小別堂)

真田本城（さなだほんじょう）は、長野県小県郡真田町にあった日本の山城であり、戦国期に活躍する真田一族発祥の地である真田の郷にあった。別名「松尾城」。

概要

戦時用の山城であり、平時の政務機能は麓にある真田氏館に置かれた。真田盆地の対峰に要害の地戸石城を望み、更に周囲の峰々にも数多くの支城群が連なり、単体の山城ではなく真田盆地を取り囲む山城群の司令部的存在と考えられている。

別名「松尾城」とも呼ばれるが、その場合、鳥居峠方面にある支城「松尾城」は松尾古城と区別して呼ばれる。ただ築城時期を鎌倉時代とすると、松尾古城の方が古いという訳ではなくなり、はっきりしていない面が多い。

歴史

築城は天文年間（1532-55）（真田幸隆）と伝えられるが、発掘調査によると縄張りは鎌倉時代の古い様式が見られ、真田氏以前にも山城が存在していたと考えられている。

天文 10 年（1541 年）に武田信虎、諏訪頼重、村上義清連合軍との戦い（海野平の戦い）により、滋野氏嫡流の海野棟綱と共に真田幸隆は本領を奪われる。この当時の真田本城については資料が残されておらず、不明な点が多い。ただ、村上氏が支城の一つである戸石城を小県郡支配の拠点として使っていた。

天文 20 年（1551 年）に、武田信玄の命を受けた幸隆が戸石城を奪取して小県の本領を回復した後、幸隆・信綱・昌幸の三代に渡って真田本城およびその支城群が整備され、上田城に移るまで真田氏の本城であったと考えられている。

真田本城の支城群

- ・ 松尾城（松尾古城）：鳥居峠（吾妻・上州）方面。鳥居峠を越えて岩櫃城、沼田城と続く。
- ・ 洗馬城・根小屋城・横尾城：地蔵峠（松代・北信濃）方面。洗馬城は真田氏最初の拠点。
- ・ 伊勢崎城・矢沢城：上田方面
- ・ 天白城・殿城山城：真田本城の後詰
- ・ 内小屋城：平地に建てられた 2 代目の拠点。後背地に横尾城があるため、実質的には館と考えられる。
- ・ 戸石城：実態は戸石城を中心とする山城群。村上氏時代に大幅に増改築された。

Wikipedia による

